

姓手前は、年貢米并夫役諸役之事、其村中相給人中之並に
令算用、右之爲十村組可致沙汰候。彼走百姓無還住間之儀
者、田畠爲十村組致耕作、年貢米諸役右之並に年々可致沙
汰事。

付、此法度以前之走百姓之儀者、最前請人任證文之旨可
相究事。

右被定置趣、若相違之輩於有之者、誰々雖爲手前、爲御横
目衆富山様ね可有言上者也。

慶長十三年二月十四日

巨海 齋宗半

江守彦左衛門元家

奥村河内守榮明

岡島備中守一吉

篠原出羽守一孝

山崎長門守長鏡

横山山城守長知

南坊 等伯

越中・加州・能州三ヶ國賣買升之儀、一統に相改可遣之旨被
仰出候條、二月廿五日以前兩人之奉行より新升を可受取。
若右之日限以後、右升を召つかひ候もの有之候はゞ、可爲
曲言者也。

慶長十三年二月十日

篠原出羽守

横山武藏守

奥村伊豫守

四二 豆腐販賣停止之儀御定

掟

金澤 町

御分國中豆腐之事、かたく被成御停止畢。自今已後商賣仕
儀有間敷候。若猥之輩於有之者可爲曲言旨、被仰出者也。

慶長十二年正月十七日

篠原出羽守

横山大膳職

奥村伊豫守

四一 賣買に用候升之儀御定

定

四三 代官・藏奉行勤方之儀

御定

掟

一、臺所入在々代官・藏奉行、爲日用人足牛馬等、當座之雇
たりといふとも一切召遣間敷事。

一、相定役米之外、ぬか・わら・薪等に至迄、少も非分申懸
儀有間敷事。

一、下代在所に立入といふとも、諸事百姓不迷惑様に可申
付候事。

一、百姓手前當分迷惑に付而、或は子或下百姓を譜代之奉
公に出儀堅令停止事。

一、藏米無皆濟以前、借錢・借米不可沙汰事。

右條々先判筋目至而違背之族者、百姓中として可言上。遂
糺明急度可申付者也。

慶長七年十二月三日

御判

四四 酒直段之儀御定

定

一、新酒之事、九月より二月迄、上々酒京判一升到付而米
一升五合宛たるべき事。
一、右酒者、三月より八月迄、上々酒京判一升到付而、米
二升宛たるべき事。

右自今以後之商賣可爲此分。若此上酒あしき様子有之者、
酒屋共可爲曲言旨被仰出者也。

慶長九年八月朔日

四五 豆腐・味噌販賣停止

之儀御定

高札

御分國中豆腐並みそ仕うり候事、堅令停止候。但みその事、
所々町宿並において、旅人・商人以下に當分少宛うりかひ
程之儀者、可仕旨被仰出者也。

慶長十年九月五日

横山大膳

奥村伊豫守

篠原出羽守